平成 25 年度
（ 第 9 回）

運営諮問会議報告書

平成 26 年 3 月

新居浜工業高等専門学校

は　じ　め　に

平成１６年度に全国の国立高等専門学校を統合する形で独立行政法人国立高等専門学校機構が発足しました。これに伴いまして，新居浜高専では従来の外部評価委員会を衣替えして，このような運営諮問会議という形で外部の有識者の皆様から，本校の運営について様々なご意見を伺ってきております。毎年度一回開催させていただいており，今回が 9 回目となります。

現在，国立高専機構は第２期中期目標期間の最終年で，重点課題として，入学志願者の確保，教育課程の編成，優れた教員の確保，教育の質の向上，学生支援，国際交流の推進などを掲げていますが，新居浜高専もこの機構の方針に基づいて年度計画を立て，その実施に鋭意取り組んでおります。

教育課程の編成や教育の質の向上については，全高専共通の最低限教えるべき教育内容であるモデルコアカリキュラムの検討や全高専が参加する数学，物理の学習到達度試験の有効活用なども検討しております。また，専攻科においては特に，技術者教育プログラムでありますＪＡＢＥＥ教育の推進に力を注いでいます。

優れた教員の確保に関しては，教員の昇任や採用は公募によっていますが，特に教授の審査では必ず一人の外部の審査員を加えるなど教育研究能力の厳格な審査をしております。在籍教員に対しては全高専･長岡豊橋両技科大教員交流制度を活用して能力向上を図っています。また，男女共同参画の推進や女性教員の積極的な採用なども進めております。

学生支援については，特にメンタルヘルスに関する教職員の意識を高めるために，学内で研修会を数多く実施しています。

国際交流についてはグローバルに活躍できる技術者の養成を目的に，学生の海外インターンシップの実施や海外協定校との学生の相互訪問を拡大しているところです。

これらの取り組みについて運営諮問会議の委員の皆様からご意見やご提言は，今後の本校の在り方を考える上においての検討の土台にさせていただきたいと思っております。

最後になりましたが，本校に対して今後とも変わらぬご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成 26 年 3 月

新居浜工業高等専門学校

校長　鈴木　幸一

目　　次

はじめに

１．　運営諮問会議日程表 ----------１

２．　運営諮問会議委員名簿 ----------２

３．　学内関係出席者名簿 ----------３

４．　新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程 ----------４

５．　議事概要 ----------５

（１）平成 25 年度及び第二期中期目標期間の活動概要と課題について

（２）前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について

（３）平成 25 年度自己点検評価の報告

６．　説明資料 ----------１６

運営諮問会議日程表

１　　日　時　　平成２６年2月１３日（木）１４：１０～１６：３０

２　　場　所　　第一会議室

３　　日　程

時　刻	次　　第
１４：１０	開会 委員紹介 本校教職員紹介 議長選出 校長挨拶 議題 １．平成 25 年度及び第二期中期目標期間の活動概要と課題について---------- 校　　長 ２．前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について---------- 教務主事 ３．平成 25 年度自己点検評価の報告---------- 教務主事 ---------- 専攻科長 （質疑応答及び意見交換） （休憩） 平成 25 年度自己点検評価の報告---------- 事務部長 （質疑応答） 総評
１６：３０	閉会

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

氏　　名	現　　職	備考
石川　勝行	新居浜市長	
越智　眞次	愛媛県小中学校長会副会長　松山市立勝山中学校長	欠席
小野　幸男	新居浜商工会議所　会頭	
竹内　美明	住友化学株式会社　理事　基礎化学品研究所長	欠席
平田　利實	ユースエンジニアリング株式会社　相談役	
増田　拓朗	国立大学法人香川大学工学部教授	
柳澤　康信	国立大学法人愛媛大学長	

（五十音順・敬称略）

代理出席者

葉賀　　徹	住友化学株式会社　主席研究員	
松木　謙司	愛媛県小中学校長会常任理事　今治市立日吉中学校長	

（敬称略）

学内関係出席者名簿

職　　名	氏　　名	備　　考
校　　長	鈴　木　幸　一	
教　務　主　事	早　瀬　伸　樹	
学　生　主　事	大　村　　泰	
寮　務　主　事	今　城　英　二	
副　　校　　長 （全国高専連合会事業担当）	安　藤　進　一	
副　　校　　長 （評価担当）	皆　本　佳　計	
専　攻　科　長	新　田　敦　己	
高度技術教育研究 センター長	中　山　　享	
機 械 工 学 科　主任	下　村　信　雄	
電気情報工学科　主任	山　田　正　史	
電子制御工学科　主任	出　口　幹　雄	
生物応用化学科　主任	中　川　克　彦	
環境材料工学科　主任	高　橋　知　司	
数　　理　　科　主任	矢　野　　潤	
一 般 教 養 科　主任	安　藤　進　一	
学生相談室長	野　田　善　弘	
ものづくり教育支援 センター長	松　田　雄　二	
事　務　部　長	飯　野　明　正	
総　務　課　長	泉　　紀　江	
学　生　課　長	井　手　克　美	

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成１７年２月８日規程第２号

（設置）

第１条　新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，地域のニーズ及び時代の変化に即応し，効率的かつ効果的な学校運営を確保するため，運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　会議は次に掲げる事項について，校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

(1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。

(2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

（組織）

第３条　会議は，本校の教職員以外の者で，高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから，校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

（任期）

第４条　委員の任期は２年とする。ただし，再任することを妨げない。

２　前項の規定にかかわらず，委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（議長）

第５条　会議の議長は，委員の互選により選出する。

２　議長は，会議の会務を総括する。

（運営）

第６条　会議は，校長が招集する。

２　会議は，必要に応じて委員以外の者に出席を求め，意見を聴くことができる。

（報告）

第７条　校長は，運営諮問会議での審議事項について，運営会議に報告するものとする。

（事務）

第８条　会議の事務は，総務課において行う。

（雑則）

第９条　この規程に定めるもののほか，会議に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

１　この規程は，平成 17 年２月８日から施行する。

２　新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成 13 年８月 29 日規程第８号）は，廃止する。

附　則

この規程は，平成２４年１１月２７日から施行する。

議　事　概　要

議事及び質疑応答の概要

議事

（１）平成 25 年度及び第二期中期目標期間の活動概要と課題について

（２）前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について

（３）平成 25 年度自己点検評価の報告

【柳澤議長】

それでは，ここまでの高専の説明について，委員の皆さんから発言をお願いします。

【増田委員】

平成 25 年度自己点検・評価報告書の 25 年度の本科入学者選抜の状況の表で，推薦選抜と学力選抜があるのですが，合計の数字が合わないような気がするのですが，これは重複して受けた場合はカウントしないということですか。

【早瀬教務主事】

推薦の志願者 157 名のうち合格者が 85 名で，そのあと推薦で不合格となった志願者のほぼ全員が学力の方に回るという形になっていますので，合わせると 361 名よりかなり大きい数字になっています。

【増田委員】

これは実人数で数えないといけないことになっているのですか。大学だと両方で数えて，これだと倍率２倍を超えますよね。

【早瀬教務主事】

実質的には学力で受験する志願者は 276 名で合格者が 125 名ですので，学力選抜だけでみると２倍は超えているということになります。

【増田委員】

トータルとしては 1.81 倍ということになるのですね。だから厳しいわけですね。

去年もお聞きしたのですが，結構倍率が高いというか，高専とは全国的にこういうものですかね。高校は志願調整もするでしょうから，そんなに高くいかないと思うのですが，中学生から人気があるという理解でよろしいですか。

【早瀬教務主事】

本校は県立高校と併願する者があまりいないので，それで 1.7 倍，1.8 倍程度ですが，全国の高専の中には公立高校と併願できる高専については３倍程度というところもあります。

【増田委員】
　併願せずにこれだけあるということで，自己評価としてはやっぱり 1.8 倍を超えたほうがいいということですか。

【早瀬教務主事】
　目標が 1.8 倍ということで，昨年度は 1.8 倍を超えた実績がありますので，落とさないようにいきたいということです。

【増田委員】
　ありがとうございます。

【柳澤議長】
　他にいかがでしょうか。

【小野委員】

　校長先生から，今後の展望ということでお話があった中で，グローバル人材の育成とか研究の活性化，社会への還元というお話がありましたが，国際交流に関する活動ということで，徳州とかあるいは台湾との交流，インターンシップをされているということは，すばらしいことであると思いますし，また，継続的にやられたらいいと思います。
　ただ，一般の多くの学生に対する，新居浜でできる何か国際交流等がありましたら，どういうことができるかということがあるのですが，どういうお考えがあるかお聞きしたいと思います。例えば，先日も開催されたのですが，毎年，新居浜で開催されるグローバルパーティーに高専の学生さんを参加させるということをやられたらいいと思います。
　それと最近，新居浜商工会議所あるいは新居浜機械産業協同組合で，いわゆるビジネスマッチングということでインドネシア，ベトナム等で商談会も行っているところですが，そういう中でせっかく新居浜高専に来ているベトナム，マレーシア，インドネシアからの留学生と新居浜機械産業協同組合などの団体との交流会を開いたらいいのではないかと思います。

【鈴木校長】
　ありがとうございました。
　留学生の数は大学ほど多くないのですが，毎年７，８名から 10 名くらいおります。新居浜には国際交流活動に非常に熱心な団体がたくさんありまして，本校もそういう団体から支援をいただいており，家庭に呼んでいただいたり，留学生自身が話をさせていただいたりして交流を深めています。いろいろな機会にぜひ，そういう団体だけでなく，いろいろな団体と交流するということは，特にものづくりを勉強しに来ている学生ですから，非常にありがたいご提言だと思います。ぜひ，そういう機会を増やして工場見学など交流イベ

ントにも参加させていただけたらと，前向きに考えたいと思っています。

【小野委員】

もう一つ，社会との連携ということですが，専門の先生と我々経済界，あるいは機械産業との交流はあるのですが，一般の先生にもぜひ新居浜市内の工場の見学や交流を，もっと夏休みにでも広げてほしいと思います。インターンシップ関係でいろいろ議論もあろうかと思いますし，就職先についても先生方が新居浜にどういう企業があるのか，どういう産業があるのかを知ってもらうためにも，ぜひ企業を訪問していただいて，お互いの交流を深められた方がいいのではないかと思います。よろしくお願いします。

【鈴木校長】

50 周年記念事業のあかがね工業博もそれが目的だったのですが，それが単発で終わっているようで，一部の先生は非常に熱心なのですが，全体に広がっていないところがありますので，ぜひそういう方向で考えていきたいと思います。

【柳澤議長】

はい，他にいかがでしょう。

【平田委員】

高専は実戦的な技術者を養成する高等教育機関なのですが，昔は技術者というのは非常に寡黙で，他人に何かを発表するということが苦手というイメージがありました。そこで，他人に表現ができる技術者を養成しなければならない，特にこの時代，アピールができる技術者を育てなくてはならない。実はそう言おうと思っていたのですが，今日の報告を聞いて，特に専攻科ではほとんどの学生が学会で発表をしているとお聞きして，とても喜んでいます。

それに関して，プレゼンのやり方や企画書の書き方，話し方まで含めて，どういった指導をされているのでしょうか。

【早瀬教務主事】

プレゼンテーションについては本科でもかなりやっていますし，専攻科では例えば英語の授業の時に，英語で自分の研究や自分の事に関して英語でパワーポイントを作って英語で発表をするという授業もやっています。

【平田委員】

ありがとうございます。

それともう一点，出前講座のことですが，非常に興味深いテーマがたくさんあり，素晴らしいと思います。講座の中でも，特にサイエンス側の方は材料代など，費用がかかると思うのですが，これはどのような準備をされているのでしょうか。

【中山センター長】
ほとんどのものは材料費の負担なしで行っています。では，支援はどこからかというと学校内の経費もありますが，愛テクフォーラム，新居浜高専技術振興協力会の方から出前授業用の資金を毎年寄附金で入れていただき，利用させていただいておりますので，小中学校側に負担をかけることはありません。

【平田委員】
ありがとうございました。

【柳澤議長】
はいどうぞ。

【石川委員】

地域との連携の関係で，市民講座，出前講座，あるいは夏季の技術講座などをやっていただいているのはありがたく思っています。ただ，先ほどの説明ではなかったのですが，産官学連携，地域の企業のニーズに応じてこういう研究開発に取り組んでいるということがあれば，また，今までにこんなことをしてこういう成果があったということがありましたら，教えていただけたらと思います。

【中山センター長】
産官学で，地元でものすごく大きな成果があるかというと，本当にうまくいったかといえば言えないところもありますが，シップリサイクルがあります。そのほかに介護工学の研究会は 20 年近く続いていまして，地元の鉄工所の技術者の方とやられています。機械工学科の先生が中心になって長く続いています。あとは単発的には国の予算をとって，企業側が何かを開発したい場合に新居浜高専の教員が入らないと資金がとれないということで，ある会社とある教員という個人と個人の関係が多いので，市長が言われているように産官学連携がきちんとした形で組んだという事例は少ないと思います。
ここが一番の欠点であると思います。

【石川委員】
ありがとうございます。
個人的な場合もあるかもわかりませんし，市も入って，市も予算を組んできちんと研究をやっていただくというのもこれからひとつお願いしたいのと，もう１点は，中小企業振興条例の中で共同研究開発に対して補助金を用意しておりますので，個人的なものでも企業さんと高専の先生が研究開発して成果が出れば，今は 75 万円の補助ですが，増額しようかとも考えています。こういうものもどしどし利用して地元にも貢献していただいたらと思いますので，よろしくお願いいたします。

【柳澤議長】
他いかがですか。

【小野委員】
先ほど市長から話がありましたように，産学官連携で，先日も経済懇談会の席で校長先生，中山センター長にも来ていただいていろいろ話をしたのですが，具体的に何かをしたいと思っています。その中で新居浜市にもものづくりの施設というか，人材育成協会というものもありますし，ぜひそういったところにも見学あるいはインターンシップも踏まえて今後の課題というのですか，具体的に何かしたいと思っています。そして，専門の先生が来られて話もされるのですが，高専には何名かの技術職員がおられると聞いていますので，技術職員の方にも地元の産業界を知っていただくことによって，産学官連携も生まれてくるのではないかと思います。ぜひ交流の機会というか，社会との連携を踏まえて何か新居浜地域で産官学の活動を定着したいと思います。よろしくお願いします。

【柳澤議長】
これに関して高専側から何かありますか。

【中山センター長】
ご指摘ありがとうございました。
高専側からのお願いがあります。昨年だと思いますが，東予産業創造センターが新居浜高専の研究室を紹介するから地元企業の技術者で興味のある人は集まってほしいという企画を行いました。二つの研究室だけをまずやってみたのですが，その時も集まりが悪いということがありました。私たちのPRの仕方も悪いのですが，できれば商工会議所や市役所と協力して，来ていただく方へのPRも必要ではないかと感じています。
個人的な考えですが，会社と一個人とでやっている共同研究で，成果が出ても結局それが広く知られていないので，もう少し何か学校側もやらなければならないと思っています。こういう成果が出ましたということを大々的にPRすると，ああ，そういうことがあるのかというのが皆様のところにも知れ渡っていくと思います。小さいことでも大げさにPRすることも大切ではないかと思います。この点は私ども産学官連携の窓口を担当している者の責任だと思いますので，今後は協力いただいて進めていきたいと思っています。

【石川委員】
ありがとうございました。
東予産業創造センターの件に関しては，まさに私どもの責任でございます。これからは活性化しようということで頑張っておりますので，また，ぜひ相談をさせていただいて，成果が出たものに関しては積極的にマスコミ等にも公表していきたいと我々も思っています。ちょうど愛大の学長さんもおられますので，産学官連携を新居浜で頑張りたいと思いますので，高専さんと愛大さんも入っていただいてよろしくお願いします。

【柳澤議長】
それではちょうど前半の質疑の区切りがいいようですので，45 分まで休憩いたします。
～休　憩～
【柳澤議長】
それでは総評に入る前に，今の報告に関して何かご意見があればお願いしたいと思います。

【松木委員】
生徒を送り出す側の中学校からの意見として，まず夏季体験学習の件ですが，希望者数が 1,078 ということでしたが，例年このような数が出ているのでしょうか。

【早瀬教務主事】
例年 700 名から 800 名程度なのですが，今年は特に多くて 1,000 名程度の参加者があったということです。1,000 名というのも，実は，例えば生物応用化学科にも参加しているし，電気情報工学科にも参加しているということで，延べでということです。

【松木委員】
希望すれば受けていただけるということですか。

【早瀬教務主事】
ただ，例えば初日の土曜の午前中が非常に多ければ日曜に移っていただけないかとか，時間とか日程の調整はさせていただいていますが，できるだけ受けるようにしています。

【松木委員】

なぜこういうことをお尋ねするかといいますと，実は本校に 16 日の入試を受ける生徒の中に久しぶりに女子がいまして，ちょうどこの時期に部活動の県大会が終わって四国大会，全国大会とつながる大会が続くところで，それとダブってしまって参加できなかったということを聞いております。この時期が適切かどうかわかりかねるのですが，こういう生徒がいることをお知りおきいただきたいと思いまして，よろしくお願いします。

【早瀬教務主事】
ありがとうございます。
来年度は，先ほど校長からもセメスター制になるということを説明しましたが，それに伴って体験学習の時期もずれまして，８月上旬の７日，８日頃を予定しております。

【松木委員】
女子学生の件でもう一点お尋ねしたいのですが，子供の中には今のＳＮＳ関係でツイッターとかあるいはフェイスブック，特にラインというのは，中学校で問題視しているので

すが，誹謗中傷を含めた冷やかし等でストレスを抱え不登校傾向になる子供がおります。特に女子が多いのですが，カウンセリングのシステムはどのようになっているのか教えていただきたいと思います。

【早瀬教務主事】
本校には学生相談室がありますので学生相談室長から説明します。

【野田学生相談室長】
本校の相談室は，各学科の教員から１名相談員を選びまして，そこに専門家として外部から精神科医を１名，臨床心理士を２名，だいたい木，金曜に来校いただき，不適応を起こした学生に関しては専門家とともに対応しています。特に本校では，女子教員が少ないという問題がありまして，女子学生の不適応，先ほどのＳＮＳに関する問題も起こっております。

特に女子寮生などは親元から離れておりますので，相談する身近な大人がいないという問題点がありまして，女子学生のケアを本校の看護師が精力的にやっております。

例えば，この 11 月には学生相談が男女あわせて 150 件くらい，学校生活，対人関係の問題，ＳＮＳの問題，他学生から嫌がらせを受けたという問題が看護師に入ってきています。そういう問題は，看護師から学生相談室長を通じて担任の先生等と連携をとりながら解決する体制を作っています。

特に看護師にはたくさんの相談がきますが，看護師１名だとけがの処置など他の業務も抱えていますので，常に学生相談に関われないため，11 月からは新たに非常勤の看護師を１名置いて，看護師への相談がしやすい環境にしています。また，本校の保健室が窓口となって，学校全体へ必要なところで情報を開きながら，みんなでケアしていこうという体制を作っています。外部の心療内科や精神科あるいは地域の若者サポートステーション，新居浜市の発達支援課とも連携をとりまして発達障害も含めて対応している状況です。

【柳澤議長】
はい。どうぞ。

【葉賀委員】

企業の立場から二つほど希望というか依頼になるかもしれませんが，二つというのはグローバル化とダイバーシティということです。

グローバル化のほうは，英語はかなり取り組まれているということですが，私どもの工場でも，これまで転勤もなくという人が突然，サンプルを作ってもらうために海外に行ったりということで，なんで自分かということが頻繁に起こってきています。グローバル化ということには，本当に若い時代に準備しておいていただければということがひとつです。

ダイバーシティというのは海外の留学生というのもそのひとつですが，女子学生ですね。昨年の質問と回答でもいろいろと宣伝して女子学生に興味を持ってもらえるようにという

ことだったのですが，実際にその効果は今年の選抜で，今，理系の女子というのは若干ブームということもありますが，増えてきているのでしょうか。お聞きしたいと思いました。

【早瀬教務主事】
今年の志願者の男女別の数字は，今，手元に持っていないのですが，おそらく例年並みかと思います。学科によっては女子が多く，半数を超える志願者となっているところもあります。

【葉賀委員】
ありがとうございます。

【柳澤議長】
今日の会議全体を通して感じられたことを述べていただく，総評に入りたいと思います。どなたからでも発言をお願いします。

【小野委員】
校長の先生に対する評価ということですが，地域との連携を進める中で，先生の研究業績だけではなく，地域活動というか，いわゆるフィールドワークの能力をもつ先生に対する評価とか採用を今後増やしていくことによって，地域との連携，産官学連携につながると思います。そういう点で，評価制度がきちんとできているかという点をよろしくお願いします。

【柳澤議長】
今の小野委員に対する回答は何かありますか。

【鈴木校長】
教員の評価というのは，研究，教育があって，社会貢献，学校内の管理運営の四本柱と言われているのですが，今までは研究が非常に大きなウエイトを持っていて，採用の評価もそうですが，どんどん変わってきています。新居浜高専が地域にあって社会貢献が有効にできるというところには，学校としてもそういう活動に対して評価に重点を置いておく必要があるのではと思っています。貴重なご意見として伺っておきます。

【平田委員】
地元の企業としては，高専の卒業生に対し，地元に就職してほしいという希望が強くあります。しかし毎年の卒業生は非常に数が少ない。少ない卒業生に，地元に残って欲しいという気持ちと，逆に全国，また世界で活躍してもらいたいという気持ちもあります。相反する面です。
そこで，新卒だけを我々は希望するのではなく，卒業生全体について考えたいと思います。ＯＢや中途採用です。高専卒で３年経ってＵターンしたいとか，卒業して 10 年になる

のだが新居浜に帰ってきたいとか，そういう人たちこそ受け入れたい。長期ビジョンで地域に技術者がどんどん増えていくという見方をしたいと思うのですね。
そのためにどういうシステムをつくらないといけないのか。
まさに産官学なので，行政も地域の企業も，学校も一緒になってやらなければならない。そのための第一歩として，卒業生が母校を訪ねやすい，懐かしい先生方に相談に帰ってきやすい，そんな学校にしたいものです。今日も見せていただいたのですが，卒業生も含めてたまり場というかあそこへ行ってみよう，まずは学校の懐かしい校門をくぐってみようと，だれだれ先生お元気ですかと行って訪ねてくる，実は悩んでいるのですよ，親がこういう理由で帰ってきたいのですがなんとかなりませんかねという場面です。
そのためにデータベースといいますか，片方ではシステムが必要なのです。20 年ほど前に新居浜市にあったのですが U ターン希望データベースといったもので，本人，親，企業が参加するものです。その頃は個人情報とか言われなかった時代なのでできたのですが，今は難しいですね。難しいのですが，面白いシステム，新居浜方式ができないかと思っています。これは，後々の課題なのですが学校と民間，行政が一緒になってそういう仕組み作りをやりたいと思っています。

【柳澤議長】
他いかがでしょうか。

【石川委員】
先ほどの説明にありました人件費抜きで約４億円の予算が，多いのか少ないのかは分からないのですが，大変厳しいのですかね。

【鈴木校長】
いろいろなことをやりたいという希望があります。特にグローバル人材の育成になると，私は在学中に全員海外で研修させたいということを皆さんに言っているのですが，抵抗が多い，それは予算の問題ですね。50 周年記念事業で募金をしまして，それも投入しますが，できるだけ多くの学生を在学中に海外に行かせたい。夢はあるが予算には制限があるということで外部資金の導入などを考えたいと思っています。
今日のお話を聞くと，新居浜高専は新居浜にあるのに地域に貢献しているのかどうか，最近のデータをみると技術相談件数が増えているということで喜んではいるのですが，どういうことができるのかということをさらに真剣に考えていきたいと思います。

【石川委員】
私の言いたいことはまさにそこで，共同研究などを活用していただいて，少しでもご支援ができるのではないかと思いますので，よろしくお願いします。

【柳澤議長】
他はいかがでしょうか。

【増田委員】

大学もミッションの再定義があって，結論からいうと特に工学部は，日本はこれから技術立国だと，技術者養成に力を入れると，特に国立大学だとマスター，大学院の養成に力を入れるということで逆に背中を押してくれるような感じでした。技術立国特別戦略を今年度中につくるということですので，そういう意味ではうまく利用して充実していくということです。その中で我々が言われたのは，香川大学がどれだけ地域の学生を受け入れて地域に出しているか，それが半分以上必要とかいうことではなく，もちろん世界に飛び出す者もいるし，全国で活躍する者もいる，先ほど葉賀さんも言われたように，香川の地元の地場産業の企業でも特にアジア中心にポッと行かなければならないと，地元の学生が香川大学に来て，地元の企業に就職するから英語をしなくてもいいとか，海外出張はいやですというのはでは困ると，海外出張どこでも行きますと，地元出身で地元の大学で地元の会社に就職したけれど全国どこでも行きますという学生を育ててほしいという要望を我々も受けています。まさにローカルだけどグローバルな人材を育てていただければいいのかなと思います。

【柳澤議長】

他いかがでしょうか。では私の方から一言。

今日最初のご意見で小野委員から，教員も学生もそうですけど，特別な人の活動はある意味わかりやすいのですけれども，一般の教員や学生のマスとして一番大きな部分の人たちがどういう活動を実施しているかが問われていると思います。たとえば自己点検評価をしたときに，あるいはミッションの再定義でもどうしても目立つもの，特別なものを選んで発表してしまうんですよね。そういうものを聞かされると，マジョリティーがどのようにしているのか逆に気になるところがありますよね。今日話題になったグローバル化，国際交流でも，一部の人は確かに留学したり，交流したりしているけれど，大多数の人にそういった場が保証されているか，全体のレベルを上げていくことでは非常に大事だと思うのですが，そのあたりの議論はこれから重ねていかなければならないと思うのです。

今日話題になりました産官学連携の実体的な連携ができているかというのは高専にとっても，我々愛媛大学にとっても大きな課題で，愛媛大学の場合にはできれば地域密着型の学部をつくるということで，地域の産業のニーズに応じた研究をしてその成果を出すことと，我々高等教育機関にとって一番重要な人材育成・教育を両立させるような体制が求められています。教員が中心となって産官学を実質的にやる仕組みの中に，学生の教育というものも組み込む仕組みをつくらないとなかなか実質化というのは難しいのではないかと思います。

新居浜地域はものづくりが盛んな所なので，高専がそこに立地しているというメリットを当然活かしていくということが重要になるのではないかと，今日の議論全体を通じて感じた次第です。

こういうことをこれからやっていけば，地域の発展にも我々高等教育機関は貢献できるのではないかと感じました。

説　明　資　料

・平成 25 年度及び第二期中期目標期間の活動概要と課題について
・前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について
・平成 25 年度自己点検評価の報告

平成25年度及び第二期中期目標期間の活動概要と課題について

平成26年2月13日
第９回運営諮問会議

新居浜工業高等専門学校長
鈴 木 幸 一

平成25年度の活動概要

□「企画調整会議」を重要事項の審議機関として明確化
（構成員：校長，事務部長，3主事，専攻科長）

□会計検査院実地検査の結果を受けて適正な会計処理に向けた対応策の実施

□セメスター制導入に向けての準備

□新居浜高専における点検・評価方針の策定
学校教育法第109条に基づく自己点検・評価の実施

□長岡，豊橋両技科大との連携事業

□第三期中期目標，中期計画に向けた重点項目の検討

第二期中期目標期間の活動概要

□学校改革推進室(22年度)将来計画検討WG設置(23年度)

□学術交流協定締結
・重慶工業職業技術学院(22年10月)・サザンクロス大学(24年2月)

□四国地区高専合同の入試会場の設置
三好会場(阿南，高知，新居浜)，宇和島会場(高知，新居浜)

□男子寮エアコン全室完備(23年度)
寮の有線LAN工事完了(24年度)

□クラブハウス新設(23年度)

□創立50周年記念事業(24年度)

連携事業，推進事業

□ 長岡，豊橋両技科大と高専機構が連携協働した教育改革
（国立大学改革強化推進事業）
・三機関のネットワークシステムの整備
・教員のグローバル化支援
・イノベーション指向人材育成

□ 企業技術者活用プログラム

□ 高専改革推進経費
・木更津高専との連携による日台交流（愛媛大学工学部とも連携）

□ 科学技術人材育成費補助事業女性研究者研究活動支援

□ 原子力人材育成事業

今後の展望

□ 高度化推進，専攻科の充実に向けた専攻科改組

□ 教育の質保証（モデルコアカリキュラム）

□ グローバル人材の育成

□ 研究の活性化と社会への還元

第8回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応について

平成26年2月13日

	委員からの意見	対応状況
1	**入学者の確保について**	
	・学生募集に努力されているのがよくわかるが，一例として，コンテストまでの密着などマスコミを利用してさらにPRしてはどうか。	①地元ケーブルテレビにおいて、10月から入試案内及び学校 のPRを実施している。さらに今年度はケーブルテレビと協力し、スマートホンから視聴できるエリア放送「研究室からこんにちは」を実施することとし、機械工学科の研究室を放映中である。また、学園祭には、環境材料工学科の棹銅作成実演の取材をしてもらい、研究室紹介と合わせて放映予定である。 ②今年度、鳥人間航空研究部が2年ぶり4回目の鳥人間コンテストに出場した。TVで放映され、データ放送でチームの紹介があった。 ③愛媛新聞の日曜版として、本紙とセットで発行される小中学生向け新聞「ジュニアえひめ新聞スマイル！ピント」において、本校教職員が「家庭でできる実験・工作等」を紹介するピント！ラボの連載を7月から始めた。
	・企業の立場からは，女性の活用を進めたい。きらきら高専ガールのパンフレットなど女性の目線を入れた広報活動がポイントになると思われる。	①高専機構作成のパンフレット（きらきら高専ガールなど）は各種イベントで活用している。また、中学生への広報冊子「はばたけ‼未来へ」では、女子学生、女子卒業生からのコメントを多く用い、女子中学生を意識した広報を行っている。 ②高専女子学生のキャリア教育と社会に向けた「高専女子ブランド」の発信を目的とし、平成23年度から高専機構において「高専女子フォーラム」を開催してきた。本校は、2014年3月に開催される「高専女子フォーラムin四国」の幹事校としてその運営に携わる。企業の方を招き、本校の女子学生から、学生生活、カリキュラム、卒業研究などについて発表をする。また企業からも、職場での女性の活躍、男女共同参画社会実現への取り組みなどを発表してもらう。
	・中学生は女子が元気がいい。女子の就職先確保や寮の問題は課題と思われる。	①女子の就職先確保は、求人に来られた企業の方等への女子学生の地道な売り込みを行うとともに、前述の「高専女子フォーラム」へも積極的に参加し、女子学生のアピールを行っている。 ②女子寮の現在の入居率は90%(54名/定員60名)である。今後の女子学生の増加も予想されることより、男子寮の女子寮への改修及び女子寮の増設要求を検討中である。

	委員からの意見	対応状況
2	**インターンシップについて** ・インターンシップの実習先については，現在県内，県外半分ずつとなっているが，できれば新居浜市内の企業で実施してほしい。	①平成25年度の実習先(愛媛県内52%,新居浜市内21%)は、平成24年度のインターンシップの実習先(愛媛県内48%,その内新居浜市内20%)とほぼ同じ状況である。実習機関の選定にあたっては、学生の希望及び実習内容を考慮して決定しているが、県外の大手企業を希望する学生も多い。 ②経団連の指針により、平成27年度より選考活動が8月以降となり、夏休みのインターンシップの受入れは今後厳しくなることが予想されるので、地元企業と学生の希望する実習内容とマッチングを進めて行き、実習受け入れ機関の開拓を進めたい。 ③新居浜市内の実習機関の受入れ状況は、平成25年度は39機関に依頼し、27機関で受入れ可能、平成24年度は、新居浜市内の44機関に依頼し34機関で受入れ可能と回答をいただいている。県外の機関と比較すると、実習の受入れを承諾いただける比率が高いので、今後も積極的な受け入れをお願いしていく予定である。
3	**海外派遣研修について** ・学生の英語力を高める取組も必要である。	①5月と12月に、学内でTOEIC-IPを実施している。5月のTOEIC-IPは、専攻科生を含む3年生以上は全員受験することを義務付けている。12月のTOEIC-IPは、本科の希望者と専攻科生全員が受験する。1、2年生には、TOEIC-Bridgeを12月の特別活動の時間に全員に受験させている。 ②1、2年生の希望者を対象としたTOEIC-Bridge試験のための補習を実施している。また、TOEICスコアの低い専攻科生に、補習を実施している。さらに、専攻科入試・大学編入試験対策の補習も実施している。 ③自学自習できる英語学習ソフトを導入し、授業の課題等にも活用している。TOEICのスコア、実用英語検定、工業英検の合格した級により単位を認定し、学生の英語学習へのモチベーションの向上を図っている。
4	**地域連携について** ・地域連携は個々の高専にとって，高専の特徴をつくることが重要と思われる。本格的な企業人材の活用ができていないのではと思う。	①高専機構の「企業技術者等活用プログラム」の採択を受けて今年度より「福祉現場における実践的課題解決教育プログラム」を実施している。本プログラムでは、学生がエンジニアリングデザイン能力を発揮する場として福祉の現場（介護施設など）と連携し、福祉施設での勤務経験を持つコーディネーターの指導のもと、課題解決に取り組んでいる。 ②高専機構の「企業技術者等活用プログラム」の採択を受けて経営工学を実施中である。講師陣は、すべて愛テクフォーラム法人会員企業の社員と本校OBである。 ③愛テクフォーラムから謝金など資金支援を受けて「企業人材等を活用した各学科・科での学生対象に実施する講演会及び勉強会」関する取り組みを始めた。平成25年度には、生物応用化学科を中心に申請のあった「知的財産管理技能検定」受験講座を開講（計5回）した。

平成２５年度自己点検評価の報告

教務主事　早瀬　伸樹

平成25年度運営諮問会議（H26. 2. 13）

観点４－３－①　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

本校の準学士課程の入学者数は、定員200人に対して、過去5年間で208人から210人の間で推移しており、定員を若干超える実入学者数となっている。過去5年間、実入学者数が定員を大幅に超えたこともなく、また、実入学者数が定員を下回ったこともない。第4学年への編入学者数も2人から6人であり、教育への支障はでていない。

本校の準学士課程の入学者数は、定員200人に対して、過去5年間で208人から210人の間で推移しており、定員を若干超える実入学者数となっている。過去5年間、実入学者数が定員を大幅に超えたこともなく、また、実入学者数が定員を下回ったこともない。

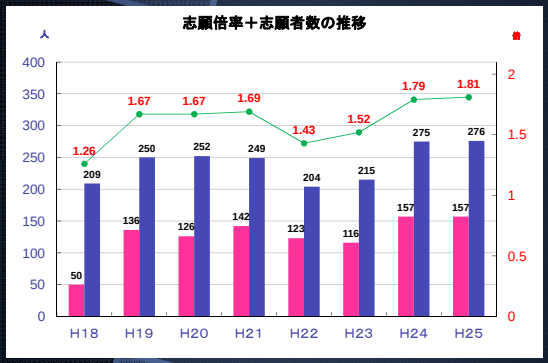
本科入学者選抜の合格者と入学者

	平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	合格者	入学者	合格者	入学者	合格者	入学者
機械工学科	42	42	42	42	42	42
電気情報工学科	42	42	42	41	42	42
電子制御工学科	42	41	41	41	41	41
生物応用化学科	42	42	42	42	42	42
環境材料工学科	42	42	42	42	42	42
計	210	209	209	208	209	209

平成２５年度本科入学者選抜の状況

学　科	入学定員	推薦選抜		学力選抜		合　計	
		志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械工学科	40	16	16	49	26	65	42
電気情報工学科	40	33	18	42	24	60	42
電子制御工学科	40	30	16	61	26	77	42
生物応用化学科	40	59	18	85	24	103	42
環境材料工学科	40	19	17	39	25	56	42
計	200	157	85	276	125	361	210

本科入学者選抜検査の状況



平成２５年度入試広報状況

広報推進本部

(1) 入試広報担当
(2) イベント担当
(3) 広報誌編集企画担当
(4) ホームページ運営担当
(5) メールマガジン担当

(1) 入試広報担当

・中学校訪問
1回目：6月上旬～8月下旬　訪問校140校
進路指導主事、3年学年主任等と面会し、本校の概要の説明及び中学校からの情報収集
2回目：11月上旬～12月中旬　訪問校67校
学生募集要項を持参し募集内容の説明、受験希望者の情報を収集

・進路説明会への講師派遣　6月上旬～11月下旬、派遣校：51校
中学3年生と保護者を対象に、本校の特色、入試内容等を15分程度で説明

・校長会理事校への挨拶 5月
校長会理事校　6校へ、校長、副校長が訪問

・地区別学校説明会 6月上旬～中旬
東予地区 25校、今治地区 7校、徳島西部地区 7校
香川西部地区 2校

(2) イベント担当

・夏季体験学習（7月26、27日 本校）
中学生を対象に、本校の施設や装置を使ってものづくりや実験を体験してもらう。
参加者：中学生　1078人、保護者及び引率教員　190人

・ものづくりフェスタ in 松山（8月2、3日　愛媛大学城北キャンパス）
小中学生と保護者に、「科学の不思議」や「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうとともに、新居浜高専を紹介する。
参加者：小中学生　41人、保護者　41人

・学校見学会（9月7日 本校）
中学生と保護者に、各学科の施設・設備、学生福利厚生施設、学寮等を見学してもらう。
参加者：中学生　231人、保護者　106人

・入試情報コーナーの開設（11月9、10日　本校）
国領祭時に、入試情報コーナーを開設し、受験相談、展示、ビデオ上映、入試過去問題解説、学科別ミニ見学会を行う。
参加者：　中学生　177人、保護者等　133人

(3) 広報誌編集企画担当

・「はばたけ！未来へ　2014」の作成　21,000部

・本科学生募集ポスター（カレンダー付き）の作成　1,200枚

・入試広報用クリアホルダーの作成　2,000枚

・新居浜高専説明用CD盤の作成　46枚

・CATV用CMの作成
入試日程等の紹介CMを作成し、10月～12月にかけて、CATVで放送

・平成25年度広報カレンダー（下敷仕様）の作成　20,000枚
県内外の中学2年生に配布（予定）

・地元ケーブルテレビと協力し、エリア放送「研究室からこんにちは」を実施

観点５－３－①：　教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

本校文化系クラブの活性化を図ることを目的に、文化系クラブ発表会「高専ソコヂカラ」を学生主体で毎年2回実施している。
チャレンジプロジェクトは、社会や地域へ貢献しようとする学生の自主的・主体的な活動に対して、新居浜工業高等専門学校後援会から資金援助を受けている。
学内外のコンテストについては、物事に進んで取り組む力、疑問を持ち考え抜く力、仲間とともに目標に向け協力する力等を養うことを目的に推進している。

本校文化系クラブの活性化を図ることを目的に、文化系クラブ発表会「高専ソコヂカラ」を学生主体で毎年2回実施している。

【実施日】 平成25年7月30日（火）　【場　所】 市民文化センター　中ホール
ステージ：吹奏楽部　・声楽愛好会　・ダンス愛好会　・軽音学部
演劇愛好会　・奇術部
ロビー：・写真部　・文学漫画創作愛好会　・美術部　・マルチメディア愛好会
・ロボット研究会　・書道愛好会

チャレンジプロジェクトは、社会や地域へ貢献しようとする学生の自主的・主体的な活動に対して、新居浜工業高等専門学校後援会から資金援助を受けている。

平成２５年度チャレンジプロジェクト審査結果

プロジェクト名	指 導 者	概要
PJEプロジェクト	今西　望 平澤英之	連続稼働するパルスジェットエンジン(PJE)を完成させ、国領祭で展示する
銀を固定化した抗菌フィルムの作製とその効果について	桑田茂樹 中山　亨	銀イオンの使用できる場所の拡大を目的とし、銀イオンをNZPに固定した粉末及び粉末をフィルムに混合したものについて抗菌性を確かめる

学内外のコンテストについては、物事に進んで取り組む力、疑問を持ち考え抜く力、仲間とともに目標に向け協力する力等を養うことを目的に推進している。

全国高専ロボットコンテスト2013四国地区大会　（11/3）

チーム名	ロボット名	結果
ロボット研究会Aチーム	燧のBFP （ヒウチノビーエフピー）	2回戦敗退
ロボット研究会Bチーム	続・ウサギとカメ	2回戦敗退

平成２５年度全国高専プログラミングコンテスト（予選：6/29、本選：10/13）

課題部門	家族とのつながり（落選）	CT・MRIによる骨塩と骨コラーゲンの3次元的解析システムの開発（落選）
自由部門	Objective Music♪（落選）	進撃の歩人（落選）
競技部門	可愛い5の目を籠絡するサイコロジカル法☆（準決勝敗退）	

全国高専ﾃﾞｻﾞｲﾝｺﾝﾍﾟﾃｨｼｮﾝ2013　（11/9）

構造デザイン部門	ＫＫ	機械工学科学生2名	8位
	χ	機械工学科学生2名	11位
CADコン	Bullet Car	機械工学科学生4名	12位

鳥人間コンテスト2013

鳥人間航空研究部「新居浜高専 Team Migrant」が滑空機部門に２年ぶりとなる４回目の出場を果たした。

クラブ活動等への所属者数

運動部系	人数		文科系	人数	
陸上部	34	運動系合計496名	鳥人間航空研究部	10	文科系合計278名
硬式野球部（高学年）	18		写真部	35	
硬式野球部（低学年）	24		美術部	9	
サッカー部	50		吹奏楽部	19	
バレーボール部（男）	19		ロータークト部	22	
バレーボール部（女）	11		コンピューター部	15	
バスケットボール部（男）	46		軽音部	10	
バスケットボール部（女）	15		考古部	17	
ソフトテニス部	23		文学漫画創作愛好会	13	
卓球部	24		ロボット研究会	20	
柔道部	8		応援団同好会	7	
剣道部	16		科学研究会	15	
水泳部	18		マルチメディア愛好会	5	
バドミントン部	45		天文愛好会	7	
空手部	18		ＤＡＮＣＥ愛好会	15	
弓道部	31		自転車愛好会		
テニス部	22		演劇愛好会	11	
フットサル部	46		哲学愛好会	5	
軟式野球部	11		将棋愛好会	6	
ラグビー愛好会	0		声楽愛好会	13	
ソフトボール同好会	17		電子工作愛好会	0	
			数理科学研究会	11	
			書道	13	

図書館の利用状況

	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年
入館者数	42,272	42,289	42,934	32,822
貸出人数	7,985	8,686	10,113	11,474
貸出冊数	8,449	9,107	10,554	11,902

学年別貸出冊数

	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年
１年	2,403	2,292	2,390	2,559
２年	2,080	2,031	2,992	4,257
３年	1,163	1,129	977	1,005
４年	883	839	1,347	1,153
５年	1,324	1,274	832	918

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

準学士課程において、卒業生の進路決定者の割合は、ほぼ100%である。その内訳は、就職が約7割、進学が約3割となっている。求人倍率は例年10倍以上である。

就職先は、準学士課程卒業生、専攻科課程修了生とも各専門分野の製造業や技術サービス業がほとんどである。進学先は、本校専攻科をはじめ、工学部（工学研究科）、農学部（農学研究科）等、それぞれの専門分野である。

準学士課程において、卒業生の進路決定者の割合は、ほぼ100%である。

平成２５年度求人状況（本科）　　平成２５年１１月末現在

学　科	求人数	就職希望者数(A)	求人倍率	内定者数(B)	内定率(B/A)
機械工学科	408	33	12.4	32	97.0%
電気情報工学科	501	30	16.7	29	96.7%
電子制御工学科	500	36	13.9	29	80.6%
生物応用化学科	239	30	8.0	24	80.0%
環境材料工学科	352	28	12.6	22	78.6%
計	2,000	157	12.7	136	86.6%

過去５年間の就職状況推移（本科）　　平成２５年１１月末現在（単位：%）

学　科	平成21年度就職率	平成22年度就職率	平成23年度就職率	平成24年度就職内定率	平成25年度就職内定率
機械工学科	100.0	100.0	100.0	100.0	97.0
電気情報工学科	95.0	100.0	97.1	100.0	96.7
電子制御工学科	91.0	100.0	92.0	92.0	80.6
生物応用化学科	100.0	100.0	100.0	100.0	80.0
環境材料工学科	100.0	100.0	90.5	100.0	78.6
計	97.2	100.0	96.4	95.0	86.6

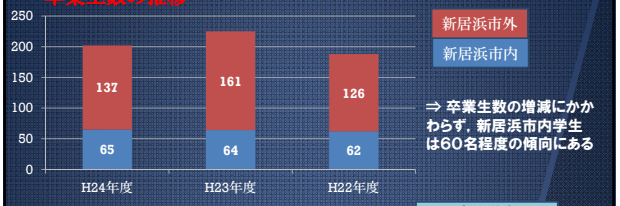
平成２５年度５学年進路希望調査（本科）　平成２５年１１月末現在（単位：人）

学　科	就職希望者	進学希望者	その他	計
機械工学科	33	10	1	44
電気情報工学科	30	8	0	38
電子制御工学科	36	12	0	48
生物応用化学科	30	14	1	45
環境材料工学科	28	8	1	37
計	157	52	3	212

平成２５年度５学年進路調査（本科）　平成２５年１１月末現在（単位：人）

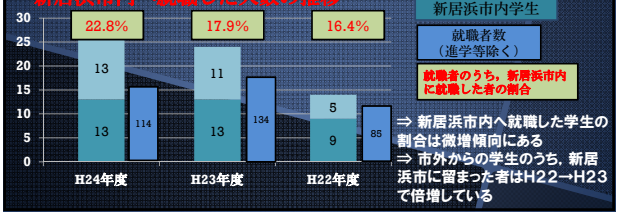
学　科	就職者			進学者	
	市内	市外県内	県外	専攻科	大学編入学
機械工学科	4	11	17	5	4
電気情報工学科	4	3	22	6	2
電子制御工学科	4	5	20	6	6
生物応用化学科	5	3	16	7	5
環境材料工学科	5	5	12	6	2
計	22	27	87	30	19

卒業生数の推移



⇒ 卒業生数の増減にかかわらず，新居浜市内学生は60名程度の傾向にある

新居浜市内へ就職した人数の推移



⇒ 新居浜市内へ就職した学生の割合は微増傾向にある
⇒ 市外からの学生のうち，新居浜市に留まった者はH22→H23で倍増している

就職先は、準学士課程卒業生、専攻科課程修了生とも各専門分野の製造業や技術サービス業がほとんどである。進学先は、本校専攻科をはじめ、工学部（工学研究科）、農学部（農学研究科）等、それぞれの専門分野である。

平成２５年度　主な就職内定先と進学予定先

（平成２５年１１月末現在）

	主な就職内定先	進学予定先
本　科	出光興産(株)　宇部興産(株) 愛媛小林製薬(株)　(株)大塚製薬工場 (株)クラレ西条　四国電力(株) コスモ松山石油(株)　四国明治乳業(株) JR四国(株)　住友化学(株) 住友共同電力(株)　住友金属鉱山(株) ダイキン工業(株)　大日精化工業(株) 大鵬薬品工業(株)　太陽石油(株) 千代田化工建設(株)　東レ(株) 日東電工(株)　日本放送協会 不二製油(株)　本田技研工業(株) 三浦工業(株)　(株)明治　ユニチカ(株) ユニ・チャームプロダクツ(株)	新居浜高専専攻科 豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学 千葉大学 東京農工大学 大阪大学 岡山大学 徳島大学 愛媛大学 九州工業大学 佐賀大学

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

＜資格試験等の支援＞

長期休業中に英語実力養成講座、数検合格対策講座、機械設計技術者試験3級受験対策講座及び電気情報工学科夏休み実力養成研修の学習支援プログラムを実施している。また、資格試験等においては、教務係や各学科・科の担当教員が受験申し込みの窓口になり受験を支援し、TOEIC IPが低額で受験できるように後援会が支援しているなどの体制も整っている。TOEICに関しては、希望者に対して、放課後補習も行っている。さらに各種の技能検定・審査及び資格試験に合格した場合、これを単位認定する制度を設け、学生の受験を支援している。

夏季休業中の学習支援（１）

1）数学夏季補習
対象：1年生の希望者
7月22日(月)～24日(水)　参加者数：51名

2）課題演習2の開講（夏季体験学習に向けて）
対象：希望者
7月27日(金)、28日(土)

3）インターンシップ・シニアインターンシップ
対象：4年生全員、専攻科1年生全員

4）機械設計技術者試験3級受験対策講座
対象：機械工学科4、5年生、生産工学専攻の希望者
7月22日(月)～24日(水)　参加者数：18名

5）電気情報工学科夏休み実力養成講座
対象：電気情報工学科の希望者
8月26日(月)～30日(金)　参加者数：21名

夏季休業中の学習支援（２）

6）電子制御工学科夏季補習

対象：電子制御工学科2、3年生の希望者

7月22日（月）～24（水）　参加者数：８名

7）知的財産管理技能検定3級受験対策講習会

対象：生物応用化学科、生物応用化学専攻生の希望者

7月23日（月）～25（水）　参加者数：２１名

8）パテントコンテスト、CVG応募書類の添削指導

対象：生物応用化学科、生物応用化学専攻生の希望者

7月下旬、8月上旬随時　参加者数：３６名

9）ベクトル解析入門

対象：生物応用化学科、生物応用化学専攻生、進学希望者

7月下旬　参加者数：３名

10）環境材料夏季学習支援

対象：環境材料工学科の希望者

7月22日（月）、23日（火）　参加者数：１名

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

１、２年次生では、特別活動の時間を利用して、年１回卒業生による講話を実施し、また、１～４年次生では企業等への研修旅行を行い、学生の職業に対する意識の涵養を図っている。４年次生及び専攻科１年次生では、専門や将来のキャリアに関連する就業体験としてインターンシップを実施しており、全員が履修している。

また、学生支援委員会において、学内での４年生及び専攻科１年生対象の企業説明会を企画、実施し、学生が参加企業の会社説明を直接受けられるように配慮している。その際、学生に対して就職活動に当たってのマナーや心構えについての事前指導を行っている。

１、２年次生では、特別活動の時間を利用して、年１回卒業生による講話を実施

平成２５年度卒業生講話

学科	講　師	
	卒業年度	所属等
機械工学科	平成20年	三菱電機（株）
電気情報工学科	平成24年	住友共同電力（株）
電子制御工学科	平成13年	ひっこしデザイン合同会社
生物応用化学科	平成20年（専攻科）	大阪大学大学院　工学研究科 博士後期課程3年
環境材料工学科	平成8年（専攻科）	（株）三好鉄工所

月　日：平成25年11月25日
対象者：本科1、2年生

１～４年次生では企業等への研修旅行を行い、学生の職業に対する意識の涵養を図っている。

平成25年度学外研修実績

１年生：合宿研修（大洲青少年交流の家）

２年生：**学外研修（別子銅山）**

３年生学外研修

学科	研修先
機械	四国電力(株)伊方発電所
電気	四国電力(株)本川水力発電所
電子	四国電力(株)松山太陽光発電所
生物	伯方産業、日本食研
環境	四国電力(株)伊方発電所

４年生学外研修

学科	研修先
機械	(株)井関、三浦工業(株)
電気	四国電力(株)伊方発電所
電子	(株)STNet、大塚製薬(株)
生物	帝人(株)、愛媛産業技術研究所
環境	帝人(株)、オオノ開発(株)

４年生及び専攻科１年生対象の企業説明会を企画、実施し、学生が参加企業の会社説明を直接受けられるように配慮している。

平成25年度企業説明会

日程：平成26年2月4日
場所：新居浜高専第一体育館
参加者：企業80社、専攻科１年生、本科４年生　約200名

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

授業に関する意見の聴取方法は、準学士課程・専攻科課程の学生とも、授業アンケートの実施により、シラバスの検証、教員の話し方や熱意、学生の興味や学習姿勢等を問い、教員がその結果を分析し、問題点と対策について自己点検を行っている。授業アンケートは、各学科・科で対象科目を決め実施している。アンケートを実施した科目担当者は、アンケート集計結果を踏まえて分析し、問題点・対策をまとめ、各学科・科の教務委員に提出している。それを基に各学科・科会議において相互評価を行い授業改善につなげている。

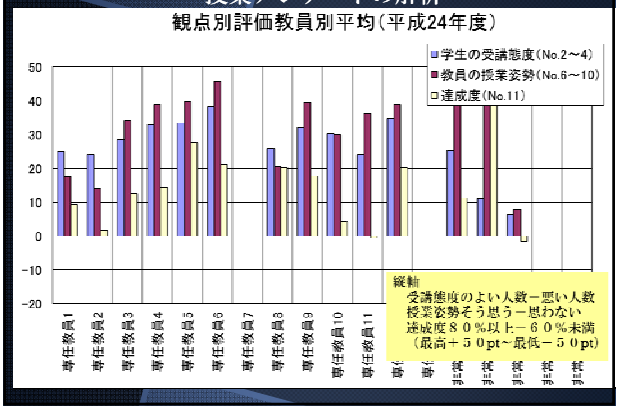
授業に関する意見の聴取方法は、準学士課程・専攻科課程の学生とも、授業アンケートの実施により、シラバスの検証、教員の話し方や熱意、学生の興味や学習姿勢等を問い、教員がその結果を分析し、問題点と対策について自己点検を行っている。

授業アンケート評価項目

1. シラバス(授業要目)どおりの授業および評価ですか。
2. あなたは，この授業中，私語や居眠りなどはしていませんか。
3. 授業を真面目に受け，ノートやメモをとっていますか。
4. 内容は理解できましたか。
5. 宿題や報告書も含めて自宅学習をしていますか。
6. 教員の話し方や説明は丁寧で分り易いですか。
7. 板書やプロジェクタは見やすく，ノートは取りやすいですか。
8. 教員は授業に対して真剣で熱意が感じられますか。
9. 授業の進め方や教材に工夫が感じられましたか。
10. 教員が授業中，学生によく質問したり発言を求めたりして，クラス全体を考えさせようとしていましたか。
11. この授業の学習目標に対する自分の達成度はどのくらいだと思いますか。

各学科・科会議において相互評価を行い授業改善につなげている。

授業アンケートの解析



観点13－１－③：　国際交流に関する目的に沿った活動の成果が挙げられているか。

(1)外国人留学生の受入れに関すること。
マレーシア政府派遣留学生とカンボジアから日本政府奨学金留学生の2人を新たに受け入れた。そのほか、留学生の支援団体を招き、留学生歓迎交流懇談会を開催した。

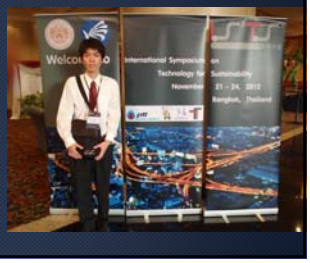
- 受け入れ実績(S60～H25)
  マレーシア:53名、中国:6名、ベトナム:5名、モンゴル:5名、
  ラオス:2名、その他:13名　総計:84名
- 現在の在籍者数(7名)

	機械工学	電気情報	電子制御	生物応用化学	環境材料
3 年	マレーシア				カンボジア
4 年	マレーシア				インドネシア
5 年	マレーシア		マレーシア	モンゴル	

(2)学生の留学及び海外研修に関すること。
海外研修旅行として、交流協定を結んでいるサザンクロス大学に、本校学生35人、高知工業高等専門学校生1人、阿南工業高等専門学校生2人、教員2人を派遣し、英語研修プログラムを実施した。また、国際シンポジウムISTS2012(タイ王国)、日台iGOシンポジウム2012(台湾)への専攻科生の参加及び学術発表を支援した。

サザンクロス大学研修旅行

国際シンポジウムISTS2012



(3)外国及び国内の大学等との協定に関すること。
愛媛大学と本校の連携を核とした高雄第一科技大学(台湾)との交流について国際交流推進室で審議し、高雄第一科技大学と交流を進めることを決定した。

台湾・高雄第一科技大学の学生3名が本校及び新居浜市内の工場を訪問

(4)外国及び国内の大学等との教職員の交流に関すること。
交流協定を結んでいる重慶工業職業技術学院の教員を約1ヶ月間受け入れ、共同研究、実験実習体験、講演会等の活動を通じて交流を行った。

重慶工業職業技術学院から邱 宇講師の滞在(2013.1/15～2/12)

（5）その他本校の国際交流の推進に関すること。
・地元の自治体と姉妹都市関係にある中国山東省徳州市の国際経済技術合作公司 総経理の表敬訪問を受け、インターンシップ、徳州学院並びに徳州職業技術学院との交流等について意見交換を行った。

張洪偉 総経理の表敬訪問

徳州市での海外インターンシップ

・ブラジル研修生の訪問、ノボシビルスク市(ロシア)訪問団、サザンクロス大学アカペラコーラスグループの訪問等を受け入れ、学生との交流を行い、学生の国際意識向上に努めた。

ブラジル研修生との交流

ﾉﾎﾞｼﾋﾞﾙｽｸ訪問団との交流

ｻｻﾞﾝｸﾛｽ大学訪問団との交流

観点14－１－②：　研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

準学士課程の5年次生及び専攻科課程の学生は、専門教員の指導の下で卒業研究や特別研究を実施し、その成果を卒業研究発表会や特別研究発表会で報告し、卒業研究論文や特別研究論文としてまとめている。さらに専攻科課程の学生は、特別研究の成果を論文や学会発表として学外で活発に公表している。

専攻科生の学会等における研究発表実績

観点15－１－①：　高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

本校は学校運営の基本方針のひとつに「地域と共に歩む「信頼」される学校を目指します」と掲げており、本校の人的・物的資源を地域社会へ還元することによって、地域の人材育成や生涯学習に貢献することを目的としている。これに基づいて毎年学校運営重点推進目標の中に地域に対する教育サービスに関する項目を挙げている。

・中学生向けに創造・製作・実験の面白さ楽しさを体験してもらうために、「夏季体験学習」を毎年夏季休業中に本校にて各学科ごとに実施している。

平成25年度「夏季体験学習」参加者数

学科	テーマ		参加者数		
	テーマ名	定員	26日	27日	計
機械工学科	M:ミニバイクをつくろう！	160	133	81	214
電気情報工学科	E1:音楽を持ち帰ろう！	120	49	42	91
	E2:人を感知するおもちゃを作ろう！	60	43	38	81
	E3:パソコンを組み立てよう！	80	36	41	77
電子制御工学科	D1:ゲームプログラミングに挑戦！	100	60	54	114
	D2:テレビゲームを作ってみよう！ ver.3	100	67	62	129
	D3:声オルガンを作ろう	100	10	7	17
生物応用化学科	C:化学屋敷！	160	127	143	270
環境材料工学科	Z:材料っておもしろい？そのおもしろさ、今！知りたいでしょう･･･	180	46	39	85
計（平成25年度）		1060	571	507	1078

実施日：平成２５年７月２６日（金）
平成２５年７月２７日（土）

・ものづくりの魅力を体感してもらうために、「ものづくりフェスタin松山」を愛媛大学にて小学校5年生～中学校3年生とその引率者を対象に、夏季休業中に開催している。

実施日：平成25年8月2日（金）
平成25年8月3日（土）
会場：愛媛大学城北キャンパス
内容：（1）ものづくり体験講座
対象：4年生以上の小学生・中学生
（2）新居浜高専紹介コーナー
（3）受験に関する相談会

平成25年度「ものづくりフェスタin松山」参加者数

体験講座	参加者数				
	8月2日（金）		8月3日（土）		計
	午前	午後	午前	午後	
世界でたった1つ！あなただけのもの☆手作りマイ乾電池☆	9	6	11	4	30
ひずみ絵を描いてみよう！	1	2	7	1	11
計（平成25年度）	10	8	18	5	41

・生涯学習講座として新居浜市生涯学習センターと新居浜高専との共同主催で、新居浜生涯学習大学に教員を講師として派遣し、一般市民の生涯学習・資質向上に寄与する目的で「新居浜高専市民講座」を毎年開催している。

平成25年度「新居浜高専市民講座」

回	月 日	テーマ	講 師
1	5月18日	物理体験教室 ～子供に物理の楽しさを教えるために～	数理科准教授 安里光裕
2	6月1日	太陽光の有効利用 ～生物応用化学的視点から～	生物応用化学科教授 中川克彦
3	6月8日	忘れられた技術の再現 ～「たたら製鉄」および「掃吹き(掃銅)」の取り組み～	環境材料工学科教授 松英達也
4	6月22日	フランクル「夜と霧」を読む	一般教養科准教授 木本 伸
5	7月6日	原子力発電と再生可能エネルギーについて	電気情報工学科教授 皆本佳計
6	9月14日	NHK時代劇の時代考証 ～大河ドラマの虚と実～	一般教養科准教授 鹿毛 敏夫
7	10月5日	フリーOS(ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ)について	電子制御工学科助教 松木 剛志
8	11月30日	エネルギーと科学史・人類史	機械工学科助教 今西 望

・出前講座は小中学生向け出前サイエンス講座として25講座、市民対象の講座として19講座を開設し、ホームページに掲載した。

新居浜高専出前サイエンス講座

分野	番号	テーマ
環 境	1	風力発電
	2	環境にやさしいエネルギーについて
	3	地球温暖化実験
	4	環境エネルギー実験！
	5	やさしい天気講座
	6	リサイクル紙作り体験！
化 学	7	身近な電池
	8	液体窒素で冷やしてみよう
	9	果物のにおいを作ろう
	10	身近にあるハイテク素材
	11	電気が通るかな
バイオ	12	身近なバイオテクノロジー
	13	玉ねぎからDNAを取り出してみよう
電気	14	電子工作をやってみよう！
	15	モータを作ろう
電子	16	LEDで遊ぼう
	17	磁力線を見てみよう
算数	18	大きさを測ろう　他

新居浜高専出前講座

分野	番号	テーマ
政治学	1	制度から理解する日本政治
歴 史	2	中世の愛媛と瀬戸内海流通史
	3	中世古文書の解読
	4	中国南京の歴史と文化
	5	愛媛の漢文文化
文 学	6	円地文子その人と作品
能力開発	7	発想（創造）力を豊かにしましょう！
物 理	8	私たちは何からできている？
	9	物理体験教室
生 物	10	植物の組織培養
化 学	11	色と光の科学
	12	やさしい有機機能化学
	13	プラスチック入門
	14	やさしいガラスの科学
	15	やさしいセラミックス入門
金 属	16	たたら操業
計測制御	17	制御ってなあに？
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ	18	身近なハードディスク装置のしくみ
	19	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ、どうして計算できるのか？

・教員研修を、小中学校の理科教育に携わる教員を対象に平成25年度も夏休みに開催した。

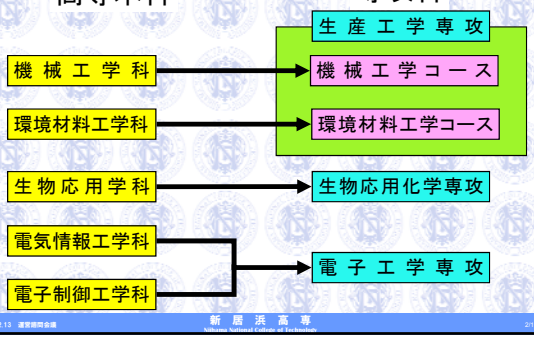
小・中学校理科教員　夏季実技研修会

実施日：平成25年8月5日（月）
内容：磁性流体の合成と磁石を使った実験
参加者：新居浜市内の小中学校理科教員
　　13名

中学校技術科教員　夏季実技研修

実施日：平成25年8月7日（水）
内容：「加速度センサプログラマーを用いたプログラミング学習」と「ゲームボードを利用したデジタル通信体験」
参加者：中学校技術科教員8名

新居浜高専専攻科の構成



専攻科　教育目標

- 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。
- リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸張する。
- 創造的な技術開発能力と総合的な判断力を養う。

観点４－３－①：実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

本校専攻科の定員は20人であり、過去5年間の入学者数は、平成25年度は18人と定員を下回ってしまったが、平成21年度から平成24年度までは定員の約1.2倍から1.6倍の入学者数で推移しており、入学者数が大幅に超えたことはなく、入学定員と実入学者数の関係は適切である。

過去5年間の専攻科入学者数の推移

年度	平均	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
志願者数	44.6	37	47	50	38	51
受験者数	44.4	37	46	50	38	51
合格者数	29.6	23	31	35	24	35
入学者数	26.4	18	26	31	24	33

専攻科在籍学生数

平成26年1月1日現在

	生産工学［定員：8 名］	生物応用化学［定員：4 名］	電子工学［定員：8 名］	合計
第1学年	12 名	3 名（2 名）	3 名	18 名（2 名）
第2学年	11 名（1 名）	6 名（1 名）	9 名（1 名）	26 名（3 名）
合計	23 名（1 名）	9 名（3 名）	12 名（1 名）	44 名（5 名）

（ ）内は女子学生で内数
女子学生：11.4%

平成26年度専攻科入試状況（合格者数）

	募集人員	推薦試験	学力1次試験	学力2次試験
生産工学専攻	8 名	9 名（9 名）	1 名（3 名）	2 名（5 名）
生物応用化学専攻	4 名	4 名（4 名）	2 名（6 名）	1 名（2 名）
電子工学専攻	8 名	9 名（9 名）	1 名（4 名）	2 名（4 名）
合計	20 名	22 名（22 名）	4 名（11 名）	5 名（11 名）

（ ）内は志願者数

観点５－５－①：　教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

本校にはJABEE（日本技術者教育認定機構）に認定された、準学士課程の４、５年次と専攻科課程からなる生産工学機械工学プログラム、生産工学環境材料工学プログラム、生物応用化学プログラム、電子工学プログラムという3つの教育プログラムがあり、準学士課程と専攻科課程の連携が十分なされている。

- 生産工学専攻
  2005年　新規　プログラム名：生産工学プログラム
  2010年　継続　プログラム名：機械工学コース
  　　プログラム名：環境材料工学コース
- 生物応用化学専攻
  2003年　新規　プログラム名：生物応用化学
  2008年　継続　プログラム名：生物応用化学
- 電子工学専攻
  2005年　新規　プログラム名：システムデザインプログラム
  2010年　継続　プログラム名：電子工学プログラム

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

全専攻で「シニア・インターンシップ」を実施している。準学士課程では主としてマナーや責任感等の社会に出る上での基本的姿勢を学ぶことを目的としているが、専攻科課程ではこれに加えて、これまでに学んできた専門の知識・技術を用いて課題発見・問題解決に当たり、実習後の特別研究に活用できるようになることを目的としている。近年では、シニア・インターンシップ先として、海外（中国）に行くことが増えてきている（平成24年度、25年度各1件）。

また、国立高等専門学校機構による海外インターンシップにも積極的に参加し、平成21年度（開始年度）より平成25年度まで6名の学生が参加している。

シニア・インターンシップ（平成25年度）

- 事前学習（ビジネスマナー講座）
- インターンシップ

期間：夏期休暇中の2週間～約1ヵ月程度

研修先：

（株）曽我部鐵工所、ユースエンジニアリング（株）、
（株）谷口金属熱処理工業所、（株）コスにじゅういち、（有）テクノマジック、
シブヤ精機（株）、（株）大塚製薬工場、日東電工（株）、日立金属（株）、
マルホ発條工業（株）、（株）西日本流体技研、
明治機械（徳州）有限公司（中国徳州市）
（独）日本原子力研究開発機構、大阪大学、
奈良先端科学技術大学院大学、長岡技術科学大学

海外インターンシップ

- 海外インターンシップ

独立行政法人 国立高等専門学校機構主管

対象：専攻科に進学予定者（5年生）、専攻科1，2年生
　　平成21年度　1名（春季）
　　平成22年度　1名（春季）
　　平成23年度　1名（春季）
　　平成24年度　1名（春季）
　　平成25年度　2名（夏季、春季）

新居浜高専は初年度（平成21年度）より毎年採択されている

観点５－７－①：　教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

特別研究の成果は、２年次生の２月に実施される専攻科特別研究発表会で報告し、特別研究論文としてまとめられており、各専攻で定められた評価方法により評価している。２年次生の４月には中国四国地区専攻科生研究交流会においてほとんどの学生が発表しており、中間報告の機会となっている。さらに、専攻科在学中に1件以上学会で発表をすることを目標とし指導していることから、近年では学会での発表件数も増加し、研究レベルの向上をにつながっている。

平成２５年度中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会（4/26，27：広島）

参加学生：26名（1年生3名，2年生23名）

発表件数

学会発表（国際会議等）

- 2012年度

（1）ISTS2012（タイ）（1名）
(International Symposium on Technology for Sustainability)
「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」国際シンポジウム
（2）日台iGOシンポジウム（台湾）（1名）
（3）日本国内での国際会議（3名）

- 2013年度

（1）ISTS2013（香港）（1名）
(International Symposium on Technology for Sustainability)
「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」国際シンポジウム
（2）日本国内での国際会議（2名）

2012年度　学会発表（国際会議等）

2012年　国際会議（日本）

発表者：3名

2012年　ISTS2012（タイ）

International Symposium on Technology for Sustainability

2012年　日台iGOシンポジウム（台湾）

国際会議等での発表者：5名

2013年度 特 別 研 究 発 表 会
（2013年2月6日：生物応用化学，7日：生産工学・電子工学）

生産工学専攻

電子工学専攻

生物応用化学専攻

観点６－１－③：教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

専攻科の求人倍率は、年度により異なるが平均すると約30倍であり、就職率は100%である。進学は年度により大幅に変動するが、平均すると15～20%程度の修了生が進学している。因みに平成25年度は、平成25年9月30日現在、7名の進学が決定している。僅かではあるが進学希望者が増加傾向にある。

就職・進学状況

平成24年度専攻科修了生の就職状況

	求人件数	就職希望者数	就職者数
生産工学専攻	328 件	11 名	11 名
生物応用化学専攻	198 件	4 名	4 名
電子工学専攻	318 件	10 名	10 名
合計		25 名	25 名

就職・進学状況

平成24年度専攻科修了生の進学状況

	進学希望者数	進学者数
生産工学専攻	0名	0名
生物応用化学専攻	2名	2名
電子工学専攻	1名	1名
合計	3名	3名

平成24年度専攻科修了生の就職先

- 生産工学専攻
  千代田化工建設(株)、日本食研(株)、(株)コスにじゅういち、
  (株)アイワ技研、住友金属鉱山(株)、(株)レクザム、住友化学(株)、
  武蔵エンジニアリング(株)、(株)イズミフードマシナリ、旭化成(株)
- 生物応用化学専攻
  (株)大塚製薬工場、大日精化工業(株)、パナソニック(株)エナジー社、
  住鉱テクノリサーチ(株)
- 電子工学専攻
  シークス(株)、(株)レクザム、(株)四電工、川重テクノロジー(株)、
  三菱電機ビルテクノサービス(株)、ローム(株)、(株)日本製鋼所、
  (株)ニコン、日本エイアンドエル(株)、NECフィールディング(株)

平成24年度専攻科修了生の進学先

九州大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、
長岡技術科学大学大学院

就職・進学状況

平成26年3月修了予定者の就職内定状況

平成26年1月31日現在

	求人件数	就職希望者数	就職内定者数
生産工学専攻	305件	8名	8名
生物応用化学専攻	230件	4名	4名
電子工学専攻	315件	6名	5名
合計		18名	17名

就職・進学状況

平成26年3月修了予定者の進学内定状況

平成26年1月31日現在

	進学希望者数	進学内定者数
生産工学専攻	3名	2名
生物応用化学専攻	2名	2名
電子工学専攻	3名	3名
合計	8名	7名

シニア・インターンシップ(平成25年度)

- 事前学習(ビジネスマナー講座)
- インターンシップ
  期間:夏期休暇中の2週間～約1ヵ月程度
  研修先:
  (株)曽我部鐵工所、ユースエンジニアリング(株)、
  (株)谷口金属熱処理工業所、(株)コスにじゅういち、(有)テクノマジック、
  シブヤ精機(株)、(株)大塚製薬工場、日東電工(株)、日立金属(株)、
  マルホ発條工業(株)、(株)西日本流体技研、
  明治機械(徳州)有限公司(中国徳州市)
  (独)日本原子力研究開発機構、大阪大学、
  奈良先端科学技術大学院大学、長岡技術科学大学

海外インターンシップ

●海外インターンシップ

独立行政法人 国立高等専門学校機構主管

対象：専攻科に進学予定者（5年生）、専攻科1，2年生

平成21年度　1名（春季）
平成22年度　1名（春季）
平成23年度　1名（春季）
平成24年度　1名（春季）
平成25年度　2名（夏季、春季）

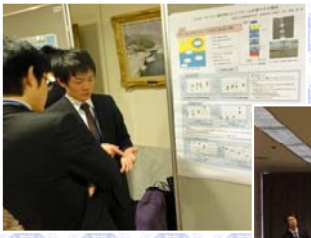
新居浜高専は初年度（平成21年度）より毎年採択されている

JABEE

- 生産工学専攻
  2005年　新規　プログラム名：生産工学プログラム
  2010年　継続　プログラム名：機械工学コース
  　　プログラム名：環境材料工学コース
  } 生産工学専攻→コース別
- 生物応用化学専攻
  2003年　新規　プログラム名：生物応用化学
  2008年　継続　プログラム名：生物応用化学
- 電子工学専攻
  2005年　新規　プログラム名：システムデザインプログラム
  2010年　継続　プログラム名：電子工学プログラム

平成25年度のこれまでの主な行事

研究発表会



ポスターセッション

口頭発表

情報交換会

ビジネスマナー講座（インターンシップ事前学習）
（7月5日：新居浜高専）

平成25年度今後の主な行事

- 10月1～7日　学位授与申請（大学評価・学位授与機構）
- 12月15日　小論文試験（岡山、他）
- 2月 7日　特別研究発表会（新居浜高専）
- 2月下旬　学位授与合否通知

専攻科の特徴

- 創造性豊かな実践的技術者の育成
- 高専本科との継続性を重視した教育
- 学士学位の取得と大学院への進学

平成25年度
自己点検・評価報告

Overview

Ⅰ. 高専を取り巻く諸情勢
Ⅱ. 教育体制：教育組織（実施体制）
Ⅲ. 教員及び教育支援者等
Ⅳ. 施設・設備
Ⅴ. 財務
Ⅵ. 管理運営
Ⅶ. 社会との連携
Ⅷ. 国際交流

Ⅰ．高専を取り巻く諸情勢

（1）国立高等専門学校機構

・高専の質確保へ長期的な方策を検討

① 男女共同参画
　１５歳人口減少への対応
　女性教員採用の促進

② モデルコアカリキュラム
　「教員が何を教えたかではなく，学生が何をどこまで身に付けたかという評価まで，きちんと行うことがねらい」

③ 外部資金
　科学研究費補助金採択件数の増加が重要

（2）文部科学省高等教育局

・「人材育成で高専は大きな役割」

① 人材育成
　「わが国全体の力は人材育成にかかっており，高専は大きな役割を果たしている」

② 教育再生実行会議（第３次提言）等
　・グローバル人材育成
　・イノベーション創出の基盤強化

③ 地域との連携
　研究成果の提供だけでなく，人材育成や（地元技術者の）レベルアップにも期待が高まっている

（3）日本再興戦略 –JAPAN is BACK-

・「高等専門学校について，地域や産業界との連携を深めつつ，社会や企業のニーズを踏まえた学科再編などを促進する。」

（4）独法の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性について

・ 「高専のミッションの再整理等」
・ 「社会状況の変化を踏まえた学校の配置の在り方の見直し及び学科再編」
・ 「業務運営の合理化・効率化」等　＊詳細は別紙のとおり

（5）専攻科修了見込み者に対する学士の学位授与の新たな審査方式について

・新たな審査方式とは別に現行の審査方式も併存するが，新たな審査方式の適用を希望して認定専攻科となった場合は，新たな審査方式での申請を原則とする。

＊独立行政法人大学評価・学位授与機構の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性
・認定専攻科修了者に対する学位授与については，専攻科認定が実施されるとともに個別申請者に対する審査が行われているが，審査において学生の時間的・経費的負担等が発生している。このため，申請者への負担軽減や大幅な審査業務の効率化を図るため，業務効率化に伴うコスト削減を明確化しつつ，新たな審査方式を導入するものとする。

Ⅱ．教育体制：教員組織（実施体制）

観点２－１－①：学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（評価）
本校が位置する地域社会の歴史，産業構造に立脚した各学科構成であり，また，その構成は，高等専門学校設置基準の規定にも適合している。

（観点に係る状況）

昭和３７年４月　第１期校として，機械工学科，電気工学科及び工業化学科の３学科で発足
昭和４１年４月　金属工学科を増設（昭和６２年，材料工学科へ改組）
昭和６３年４月　電子制御工学科を増設　現在の５学科の原型
平成　４年４月　専攻科（生産工学専攻及び電子工学専攻）設置　７年間の一貫教育を可能にした
平成　９年４月　工業化学科を生物応用化学科へ改組
平成１５年４月　電気工学科を電気情報工学科へ改組
平成１９年４月　材料工学科を環境材料工学科へ名称変更

＊各学科の目的は代表的な工学分野である機械工学，電気電子工学，情報工学，生物化学，応用化学，材料工学で必要とされる教育内容と合致しており，高等専門学校設置基準と適合したものである。

観点２－１－②：専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（評価）
各専攻は，準学士課程の学科に対応して設置されており，専攻科の教育目標に基づいて，学生が達成すべき目標を具体的に定めている。したがって，その構成は教育の目的を達成するために適切といえる。

（観点に係る状況）
・ 専攻科の教育目標を達成するために，準学士課程に対応する専攻として，生産工学専攻，生物応用化学専攻及び電子工学専攻で構成

生産工学専攻	機械・材料系の卒業生
生物応用化学専攻	化学・生物系の卒業生
電子工学専攻	電気・電子・情報系の卒業生

観点２－１－③：全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（評価）
３センターともに，教育の目的を達成するために適切といえる。

（観点に係る状況）
（1）高度技術教育研究センター
広い視野での教育による創造性豊かな人材育成と従来の専門分野の枠を越え，相互に融合した有機的研究体制による教育研究の推進を図り，地域産業の発展に資することを目的として平成１１年４月に設置

（2）情報教育センター
情報教育の推進，ＩＴ技術を利用した新教育手法の導入，学内ネットワークの運用管理などを図る組織として，平成１５年４月に設置

（3）ものづくり教育支援センター
各学科の実験実習・卒業研究など教育研究の支援，ロボコンなどものづくりの課外活動の支援，地域連携による技術交流・支援を目的として設置

観点２－２－①：教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（評価）
教育課程を検討し，運営する体制が整備されており，毎年それぞれ約20回の教務委員会と専攻科教育委員会が開かれ，教育全般にわたる重要事項が審議されている。

観点２－２－②：一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が機能的に行われているか。

（評価）
一般教育・数理科教員と専門学科教員との科目間連携及び教員間連携を定期的に行う科目間調整連絡会が設置されている。平成25年度は，英語，数学・物理に関する連絡会を開催し機能的に活動している。

観点２－２－③：教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（評価）
学年主任を置き，担任の教育活動の支援が図られ，また，各種委員会との連携もより円滑に行われるようになった。クラブ顧問に対しては，教員全員による複数顧問指導体制とクラブ活動安全指導体制による支援が行われている。

Ⅲ．教員及び教育支援者等

観点３－１－①：教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（評価）
一般科目担当教員［48人（専任教員28人，非常勤講師20人）］の構成は，高等専門学校設置基準を満たすとともに，各教員の専門分野を考慮し，教育課程の授業科目の構成に対してバランスよく配置している。さらに，本校及び各学科の教育目標を達成するために，教育上重視している科目に教員を配置するなど，各教員を効果的に配置している。

教授	准教授	講師	助教	嘱託教授	非常勤講師	合計
12	9	4	1	2	20	48

（平成26年1月1日現在　単位:人）

観点３－１－②：教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（評価）
専門科目担当教員［73人（専任教員56人，非常勤講師17人）］の構成は，高等専門学校設置基準を満たすとともに，各教員の専門分野を考慮し，教育課程の授業科目の構成に対してバランスよく配置している。また，学位取得者，技術士，企業勤務，海外勤務又は留学経験者等，多様な経験を持つ教員を各学科に配置するなど，本校の教育目標を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員を適切に配置している。

教授	准教授	講師	助教	特任教授	非常勤講師	合計
24	20	4	7	1	17	73

（平成26年1月1日現在　単位:人）

観点３－１－③：専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。
（評価）
各教員の専門分野に適合した授業科目を担当するとともに，専攻科の目標を達成するために，博士の学位取得者，企業勤務経験者，留学経験者等を専任教員として配置している。

観点３－１－④：学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。
（評価）
教員組織の活動をより活発にするための措置として，教員の採用は原則公募で行っており，教員採用の取組，高専機構の派遣制度を活用した他の教育研究機関との人事交流等により，教員組織の活性化を図っている。

観点３－２－①：全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（評価）
教員の教育活動の評価は，自己申告に加えて教員相互評価や，学生による評価結果に基づき，顕彰する仕組みとなっている。校長は各教員と毎年１回面談し，その内容は校務分担の見直しや組織の活性化に役立てている。また各種アンケートを実施し，教員に対してそれぞれフィードバックしている。

観点３－２－②：教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（評価）
教員の採用や昇任に関する選考については，人事委員会規程及び高等専門学校設置基準に適合された人事選考に関する内規で明確に規定するとともに，採用案件の都度，人事選考委員会の審査を経て採用している。非常勤教員についても，常勤教員に準じて実施している。

観点３－３－①：学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（評価）
技術室要項，事務組織及び事務分掌規程により組織の役割を明確にした上で，技術室において3部門にそれぞれ必要な人数の技術職員を配置し，技術支援及び技術開発にあたっている。事務職員についても，事務部長の下，総務課，学生課の2課で事務を分担し，適切な人員を配置した上で，教育活動の展開を支援している。

Ⅳ．施設・設備

観点８－１－①：学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（評価）
計画的に校舎の耐震化や老朽施設の改修，ライフラインの更新を行い，改修に際してバリアフリー化，省エネルギー化を進めるなど，安全・安心及び地球環境に配慮した教育研究環境の整備を積極的に進めるとともに，既存スペースを見直し，共用スペース等の有効活用を図っている。実験実習機器類についても，科学技術の進歩・高度化に対応した機器への更新を進めている。
以上のことから，本校の施設・設備は高等専門学校設置基準に定める基準を満たし，教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理のもとに有効活用している。さらに，施設・設備のバリアフリー化や環境面も十分配慮している。

観点８－１－②：教育内容，方法や学生のニーズを満たすICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（評価）
・ ICT環境は情報教育センターによって運用・保守の体制が整備されており，校内の全ての居室に情報コンセントが設置され，ネットワークの利用が可能となっている。また校内の4箇所にあるコンピュータ演習室とCALL教室が設置され，同時に5クラスの演習室を利用したICT活用教育を実施できる設備と環境が維持されている。
・利用時間内であれば，演習室での自主学習や寮でのネットワークの利用が可能になっている。学外からでもインターネット学習システムや英語学習システムがアクセス可能になっており，自宅における自主学習での利用が可能となっている。
・セキュリティについては高専機構セキュリティポリシー基本指針に沿って運営・管理されており，学生への啓発も実施されている。

観点８－２－①：図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

（評価）
・ 図書館の選書システムは充実しており，工学及び自然科学分野の図書が過半数を占め，教育研究上必要な資料が整っている。また，電子ジャーナルも積極的に導入されており，図書館の利用環境は整っていると判断できる。
・図書館の入館者数は維持されているが，貸出冊数は下降傾向にある。対策は打っているが，その効果は現時点では現れていないので，更なる対策が必要である。

1．校舎地区

クラブハウス新営工事	平成24年3月
電子制御工学科棟 北側避難用スロープ整備工事	平成24年1月
電子制御工学科棟教室雨漏補修工事	平成24年8月
合併教室棟外壁及び屋上防水改修工事	平成24年9月
敷地境界囲障更新工事	平成24年12月 ～平成25年2月
機械工学科棟女子トイレ整備	平成25年3月
環境材料工学科棟トイレ整備	平成25年8月
ライフライン（給水設備等）改修	～平成26年3月

改修前

改修後

機械工学科棟女子トイレ整備

今後の計画

◆：既設【女子】洋式便器を多機能便器に更新する。
（1箇所あたり約50万【概算】）×9箇所

◆：既設【男子】洋式便座を多機能便座に更新する。
（1箇所あたり約20万【概算】）×7箇所

◆：既設和式に音姫を設置する。
（1箇所あたり1．5万　※電池式）×8箇所

◆：複数ある既設和式便器のうち少なくとも1基を多機能洋式便器に更新する。（1箇所あたり約50万【概算】）
男子×4箇所　女子×2箇所

◆：環境材料工学科棟、一般教室棟については、照明センサー取付けを別途計画

2. 学寮地区

男子寮空調機用電源工事	平成23年10月
男子寮全居室に空調機導入	（平成23年11月～ 学寮保護者会がリース）
螢雪寮・青雲寮洗濯場整備	平成23年11月
青雲寮トイレ改修工事（和式→洋式）	平成24年 3月
シャワー室改修工事（カーテン間仕切→ユニット型）	平成24年3月
第1浴室給湯設備改修工事	平成24年10月～11月
情報ネットワーク整備工事	平成24年10月～平成25年1月
学生寮食堂内壁塗装改修	平成25年7月～平成25年8月
雄風南寮南側駐輪場整備工事	～平成26年3月

学生寮食堂内壁塗装改修

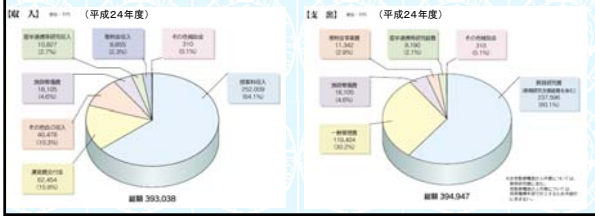
Ⅴ. 財務

観点10－1－①：学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（評価）
校地，校舎等の主な資産は，独立行政法人化移行時に国から承継されたものであり法人化後も計画的に取得及び更新している。また，本校の運営にあたっての支出は，高専機構本部から配分される運営費交付金及び授業料等の自己収入の範囲内で行っている。
以上のことから，本校においては，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しており，債務もない。

観点10－1－②：学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（評価）
運営費交付金は，前年度予算に対し効率化による減額はあるものの，学校運営に必要な経費として，国から高専機構本部を通じて経常的に配分されている。また，自己収入の大半をしめる授業料については，毎年，学生定員が充足されているため，継続的に確保されている。
以上のことから，本校においては，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているといえる。



観点10－1－③：学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（評価）
外部資金の獲得については，現状では満足できる状況にないが，より多くの資金獲得に向けて平成24年度から新たな取り組みも実行しており，今後，増加することが期待される。また，間接経費も取扱要項に基づき適切に配分の上，使用されている。
以上のことから，本校においては，外部の財務資源の活用策が策定され実行しているといえる。

共同研究	受託研究	科学研究費	寄附金
12件　5，220	3件　2，916	8件　11，029	9件　394

（平成25年度新規獲得額　単位：千円）

観点10－2－①：学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（評価）
学内における年度予算は，運営会議での審議を経て決定されており，その内容は文書により教職員に周知されている。以上のことから，本校においては，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されている。

観点10－2－②：収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（評価）
配分された予算の範囲内での執行計画を立て，また，財務会計システムにより常に予算配分額，執行済額及び残額を確認しながら執行を行っていることから支出超過はない。

観点10－2－③：学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（評価）
学内予算については，教育研究活動が円滑に実施できることを考慮した配分となっており，その内容は運営会議で審議，決定した後，教職員に周知されている。また，共同研究推進費等の校長裁量経費は，校長のリーダーシップの下，公募に基づき採択事業を決定しており，教育研究費については，教育・研究業績の評価によりインセンティブに配分されている。以上のことから，教育研究活動に対し，適切な資源配分がなされているといえる。

観点10－3－①：学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（評価）
高専機構全体の財務諸表は，機構本部において官報公告及びウェブサイトで適切に公表されており，また，本校の財務状況も広報誌及びウェブサイトで公表している。以上のことから，財務諸表等は適切な形で公表されているといえる。

観点10－3－②：財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（評価）
毎年，学内での会計監査と四国地区内の高等専門学校間で相互監査を実施し，また，定期的に機構本部による監事監査及び内部監査並びに会計監査人による監査を受けており，これに基づく会計処理適正化のための改善が図られている。以上のことから，会計監査等は適正に行われているといえる。

Ⅵ．管理運営

観点11－1－①：学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（評価）
学校の目的を達成するため，校長の下に３主事，副校長等を置き，学校運営全般について補佐する態勢がとられている。学校の管理運営に関する事項を審議するために運営会議をはじめとする各委員会等が置かれ，その役割は規程に明記され，校長の運営方針等が具体的施策に反映できるよう意見の聴取，情報の共有が行われている。
以上のことから，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっている。

観点11－1－②：管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また危機管理に係る体制が整備されているか。

（評価）
管理運営の諸規程は整備され，継続的に改善が図られている。また，25の各種委員会等が設置され，管理運営に関する業務を分担している。事務組織は，総務課，学生課がそれぞれ管理運営に係る所掌事務を分掌している。危機管理に係る体制については，リスク管理室を中心に危機事象に対応する体制がとられている。また，防災マニュアルや緊急連絡網を整備し，教職員に周知している。
危機事象全般に対応した危機管理マニュアルがないので整備が急がれる。

観点11－2－①：自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されている。

（評価）
本校における点検評価方針を定め，平成25年度に，本校が定める独自の評価基準に基づく点検・評価と，第２期中期目標期間における事業の達成状況の点検・評価を実施し，その結果を公表する予定である。

観点11－2－②：自己点検・評価について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（評価）
本校が定める独自の評価基準に基づく点検・評価と，第２期中期目標期間における事業の達成状況の点検・評価について運営諮問会議の検証を受ける予定である。

観点11－2－③：評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（評価）
学外有識者による運営諮問会議での意見は，学内で報告され，改善に向けた検討を行っており，ＰＤＣＡサイクルが整備されている。

観点11－3－①：外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（評価）
運営諮問会議での意見や，ＪＡＢＥＥ，機関別認証評価等，第三者評価の結果を管理運営に反映させるシステムがあり，これらの意見は本校の管理運営の改善に反映されているといえる。

観点11－3－②：学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（評価）
愛テクフォーラムの協力を得て，インターンシップや共同研究等により地元の企業との連携が図られている。また，企業人材の活用により，学生のエンジニアリングデザイン能力を育成するプログラムを実施し，本校の目的であるものづくり技術者の育成や実践的な技術教育の充実につながっており，外部資金を有効に活用しているといえる。

観点11－4－①：高等専門学校における教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（評価）
本校の教育研究活動の状況は，組織の状況から日々の活動にいたるまで，複数のメディアを通じて広く社会に発信していることから，高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているといえる。

Ⅶ．社会との連携

観点12－1－①：社会との連携に関する体制及び支援体制が適切に整備されているか。

（評価）
地域との連携協力を図るために高度技術教育研究センターが，また，ものづくり教育及び地域等との技術交流を推進するために，ものづくり教育支援センターが設置されており，社会との連携に関する体制及び支援体制が適切に整備されている。

観点12－1－②：社会との連携に関する目的，基本方針が定められ，明示されているといえる。

（評価）
高度技術教育研究センター及びものづくり教育支援センターの社会との連携に関する目的は，それぞれ学内規程で定められており，ウェブサイトに掲載し公開している。

観点12－1－③：社会との連携に関する目的に沿った活動の成果が挙げられているか。

（評価）
高度技術教育研究センターを中心に，社会との連携に関する目的に沿った各種の取組が活発に行われている。

1.「理数系教員指導力向上研修」における新居浜市との連携

(1)小・中学校理科教員夏季実技研修会

本年度ﾃｰﾏ「磁性流体の合成と磁石を使った実験」

（平成25年8月5日実施）

【趣旨等】
児童生徒の理科や科学技術に対する興味・関心を高め知的探求心を育成することを目的として、小・中学校の教員に理科実験や専門的な内容を紹介する機会として毎年開催している。

(2)中学校技術科教員夏季実技研修会

本年度ﾃｰﾏ
「加速度ｾﾝｻﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏｰを用いたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ学習
「ゲームボードを利用したデジタル通信体験」

（平成25年8月7日実施）

【趣旨】
生徒の科学技術に対する興味関心を高め、知的探求心を育成することを目的としており、中学校教員に工作等の教材を紹介する機会として、毎年開催している。

2. 新居浜高専技術振興協力会（愛テクフォーラム）の活動

地域社会・産業界との連携・交流を積極的に推進し，地域産業の発展など地域振興に寄与するとともに新居浜高専の教育振興を図ることを目的に，平成１７年に設立された新居浜高専技術振興協力会『愛テクフォーラム』は，平成２５年度から新居浜高専と共同研究を行う法人会員企業の支援を開始し，初年度２社を支援した。

事 業 概 要

- 地域産業界等との人的交流、情報の交流
- 共同研究等技術研究開発の連携推進
- リフレッシュ教育等技術者育成支援
- 高専の教育研究の振興に関する事業

学生会員 事業実施内容

- 学生の共同研究等技術研究力向上支援
- 地域産業界等との人的交流、情報の交流
- インターンシップ支援
- 新居浜高専の学生の人材育成の振興
- その他、学生に対する支援

平成26年1月20日現在

法人会員	39 社
特別会員	16 団体
一般会員	53 名
学生会員	11 名

活動実績：
「あかがね工業博2012」に展示ブースを出展し、パネル展示・立体核図表展示・小水力発電システム展示を行った。平成25年度には小水力発電について活動報告書にまとめた。

Ⅷ. 国際交流

観点13－1－①：国際交流に関する体制及び支援体制が適切に整備されているか。

（評価）
国際交流に関する体制として，運営組織規則の規定に基づき国際交流推進室が設置されており，適切に整備されている。

観点13－1－②：国際交流に関する目的，基本方針が定められ，明示されているか。

（評価）
国際交流に関する目的，基本方針が，国際交流推進室規程に規定されており，ウェブサイトに掲載し公開している。

観点13－1－③：国際交流に関する目的に沿った活動の成果が挙げられているか。

（評価）
国際交流推進室が中心となり，留学生交流及び国際教育研究交流の推進を図るための様々な行事が活発に行われている。

国際交流の推進

(1) 学術交流協定 締結

- サザンクロス大学（オーストラリア） 平成21年 2月18日
- 重慶工業職業技術学院（中国） 平成22年10月 5日

- 重慶工業職業技術学院への表敬訪問
  平成24年 9月 3日 ～ 7日
- 重慶工業職業技術学院から教員の来校
  平成25年 1月～2月

(2) 短期海外研修旅行の実施

- 平成22年3月 オーストラリア
- 平成23年3月 中国
- 平成24年3月 オーストラリア
- 平成25年3月 オーストラリア

(3) 海外インターンシップの実施（機構本部主催）

- 平成24年度　1名
  派遣期間：平成25年3月5日～3月23日
  派 遣 先 ： ベトナム　ヤマハ発動機(株)
- 平成25年度　1名
  派遣期間：平成25年8月18日～9月7日
  派 遣 先 ： ベトナム　日本ユニシス(株)

(4) その他

- 明治機械有限公司(中国徳州市)専攻科インターンシップ　平成25年8月
- 高雄第一科技大学(台湾)・愛媛大学との学生交流　平成25年9月

メールマガジンの配信

本校ではメールマガジンを、月一回のペースで発信しています。

キャンパス情報や入試情報など、“新居浜高専の今”をメールマガジンだけでしか見ることのできないコンテンツで提供します。 メールマガジンと連動したwebサイトも用意しており、“見たい！”“知りたい！”ニュースを様々な角度からタイムリーに提供します。

是非、下記URLから登録をしてご覧になってください。

http://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/mail_magazine/

※ 登録数 902名 （平成25年10月現在）

ご意見箱の設置

本校　ホームページ上に

ご意見箱を設置しています。

学校運営等へのご意見･ご要望の受付

新居浜高専は、皆様から本校の学校運営等に関するご意見、ご要望をお聞きし、今後の改善に活かしていきたいと考えております。

皆様からのご意見、ご要望等をお待ちしております。

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

平成25年度（第9回）

運営諮問会議報告書

平成26年3月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580　愛媛県新居浜市八雲町7番1号

TEL：(0897)37-7700

FAX：(0897)37-7842

URL：http://www.niihama-nct.ac.jp/